

第89 回 大学等におけるオンライン教育とデジタル変革に関するサイバーシンポジウム

オンライン教育

「人口減少社会における地域教育の支援— T-base の挑戦」



北海道高等学校遠隔授業配信センター
次長 佐藤 豊記

受信校数

32校

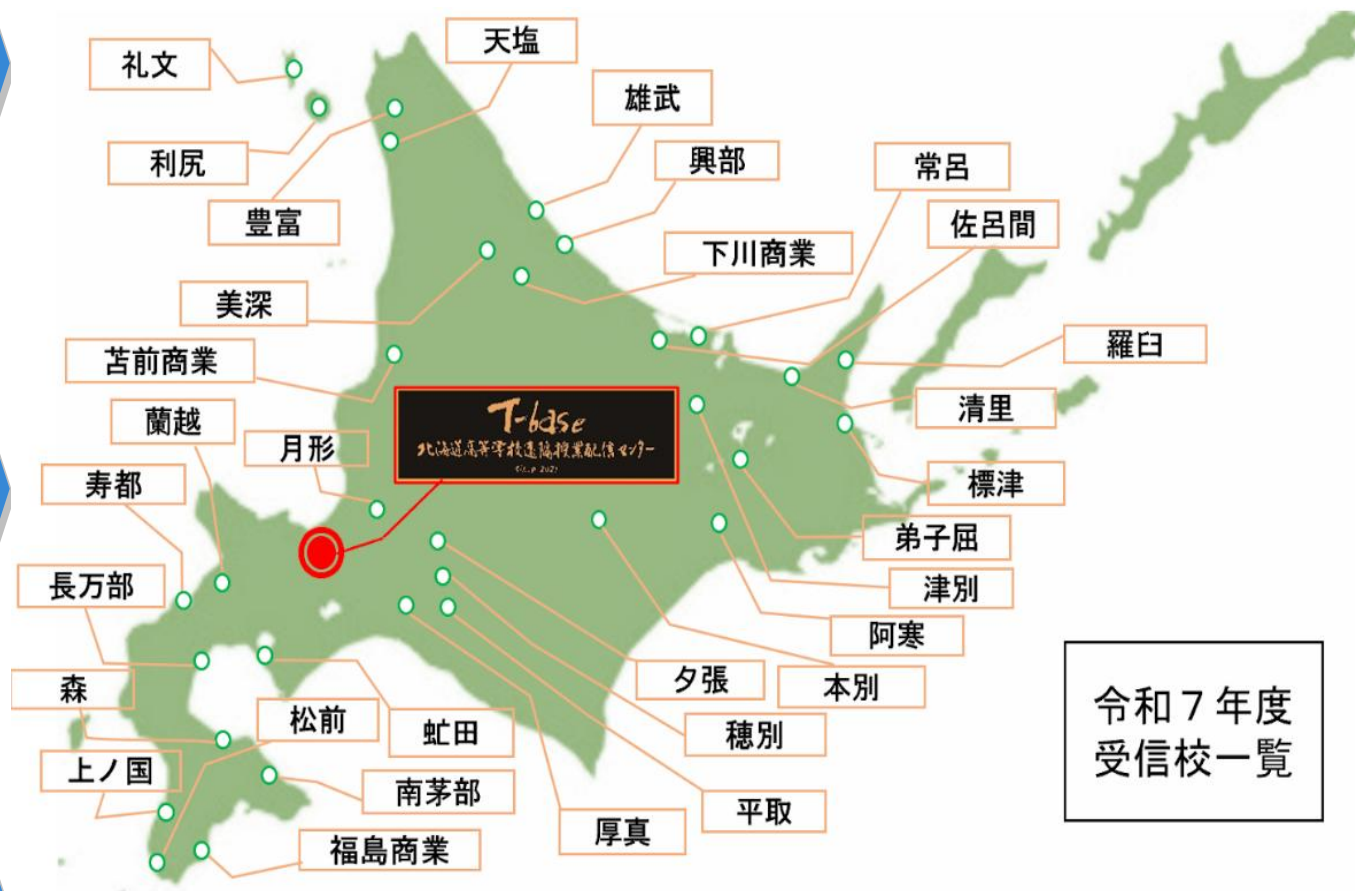
地域連携校 30校
離島の協力校 2校

受講生徒数

952名

配信授業数

週295時間



※地域連携校：1学年1学級の高校のうち、再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い高校

配信教科・科目数^(R7)

9

教科

30

科目

国語（古典探究）**地理歴史**（地理総合、歴史総合、地理探究、日本史探究、世界史探究）**公民**（公共、倫理、政治・経済）**数学**（数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、数学A・B・C）**理科**（物理基礎、生物基礎、物理、化学、生物、科学と人間生活）**芸術**（音楽Ⅰ、書道Ⅰ）**外国語**（英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲ、論理・表現Ⅰ・Ⅱ）**情報**（情報Ⅰ） **家庭科**（家庭基礎）

T-baseの取り組み

- ・ **習熟度別授業**の実施
⇒ 数学、英語
- ・ **合同授業**の実施
⇒ 古典探究、数学Ⅰ、数学Ⅲ
- ・ 年に **2回**、**対面授業**の実施

受信校の取り組み

- ・ 全校で**授業時間帯を統一**
午前50分開始、午後25分開始
1コマ50分
- ・ **教科外教員**や**学習支援員**が授業をサポート

T-base基礎データ

教員数 **24名**

国語(1) 地・公(3) 数学(6)
理科(4) 音楽(1) 書道(2)
英語(5) 情報(1) 家庭 (1)
(センター長・次長を含めて計26名)

R7持ち時間数(1人あたり)

16時間 / 週 (最大)

担当校数(1人あたり)

6校 (最大)



Google Chatの活用

紙媒体の資料は原則廃止
朝の打合せを廃止

定例職員会議の廃止

必要に応じてミーティングを実施

校務分掌

教務グループ

総務グループ

進路グループ

研究グループ

4 T-base 令和7年度の配信科目一覧

配信教科・科目数^(R7) 9 教科 30 科目

		令和7年度（2025年度）北海道高等学校遠隔授業配信センター 授業担当数一覧（週あたり）																							令和7年（2025年）4月1日現在				
		国語		地歴・公民		数学						理科				音楽		書道		外国語						情報		家庭	
		小上 泰弘	大久保博史	横平麻紀子	千葉 康平	木村 郁夫	奈良岡英男	戸枝 亮寛	遠藤 裕幸	佐藤 優介	佐藤 崇力	飯嶋めぐみ	山田 和広	水上 大司	後田 航平	伊藤 範秋	酒井 亜紀	岡 弘洋	加藤 将司	増井 誠一	山本 龍	龍 宮嶋 亜海	木村 建太	中根 孝浩	野尻 千裕				
1	夕張			3											2			2								7			
2	月形	4												4			2			4						14			
3	蘭越		3				4				3															10			
4	寿都										5							2		4	4	3				18			
5	虻田																	2							2	4			
6	穂別																	4					4			8			
7	厚良																	2								2			
8	平取	4																						2		6			
9	福島商業						4		5											5			2			16			
10	南茅部		2													2					4					8			
11	松前			3						5		2	6									2		2	2	22			
12	長万部					5													2							7			
13	森										7									3						10			
14	上ノ国				5		4	2		5															2	18			
15	下川商業													4				2								6			
16	美深																									0			
17	苫前商業																	2								2			
18	天塩							5							4									2		11			
19	豊富		2																		4			2		8			
20	礼文																	2						2		4			
21	利尻	2						2				4					2									6			
22	常呂																2									6			
23	津別	2				3			5																	10			
24	清里	4			3	5	4		5			4	4													29			
25	興部			2				2																		4			
26	雄武													2									4			6			
27	佐呂間		3																					2		5			
28	本別							2			5				4											11			
29	弟子屈										3							2								5			
30	阿寒								2		2								4							8			
31	標津			2	3					3							2					3				13			
32	羅臼					5						2										4	2			13			
計		16	10	10	11	18	16	13	17	20	18	12	10	10	10	6	10	14	9	13	12	12	12		6	297			
※斜体は合同授業の組合せにより変更になる可能性があります。																													

※斜体は合同授業の組合せにより変更になる可能性があります。

古典探究(月形・平取)

数学Ⅰ(寿都・本別、清里・津別、松前・森・弟子屈・蘭越、上ノ国・標津)

数学Ⅲ(長万部・津別、清里・羅臼)

合同授業の実施

教育
課題

小規模校では、大学進学等の
**進路希望に対応した教科や
科目の提供が困難**

大学進学を目指す生徒は
都市部の高校へ進学

設置
目的

生徒の都市部流出を防ぎ、
**ふるさとの発展に貢献する
人材を育成**

大学進学に対応した科目を
提供

地域にある地元の小規模校からの進学を支援
令和3年 北海道高等学校遠隔授業配信センター設置

受信校数

令和3年**27**校 ▶ 令和4年**29**校 ▶ 令和7年**32**校



北海道高等学校遠隔授業配信センターは札幌市北区
屯田(とんでん)にある北海道有朋(ゆうほう)高等学校
内に設置

フリーアドレスの職員室



配信スペースは15か所（オープンスペース7カ所）



配信スペースは15か所（オープンスペース7カ所）



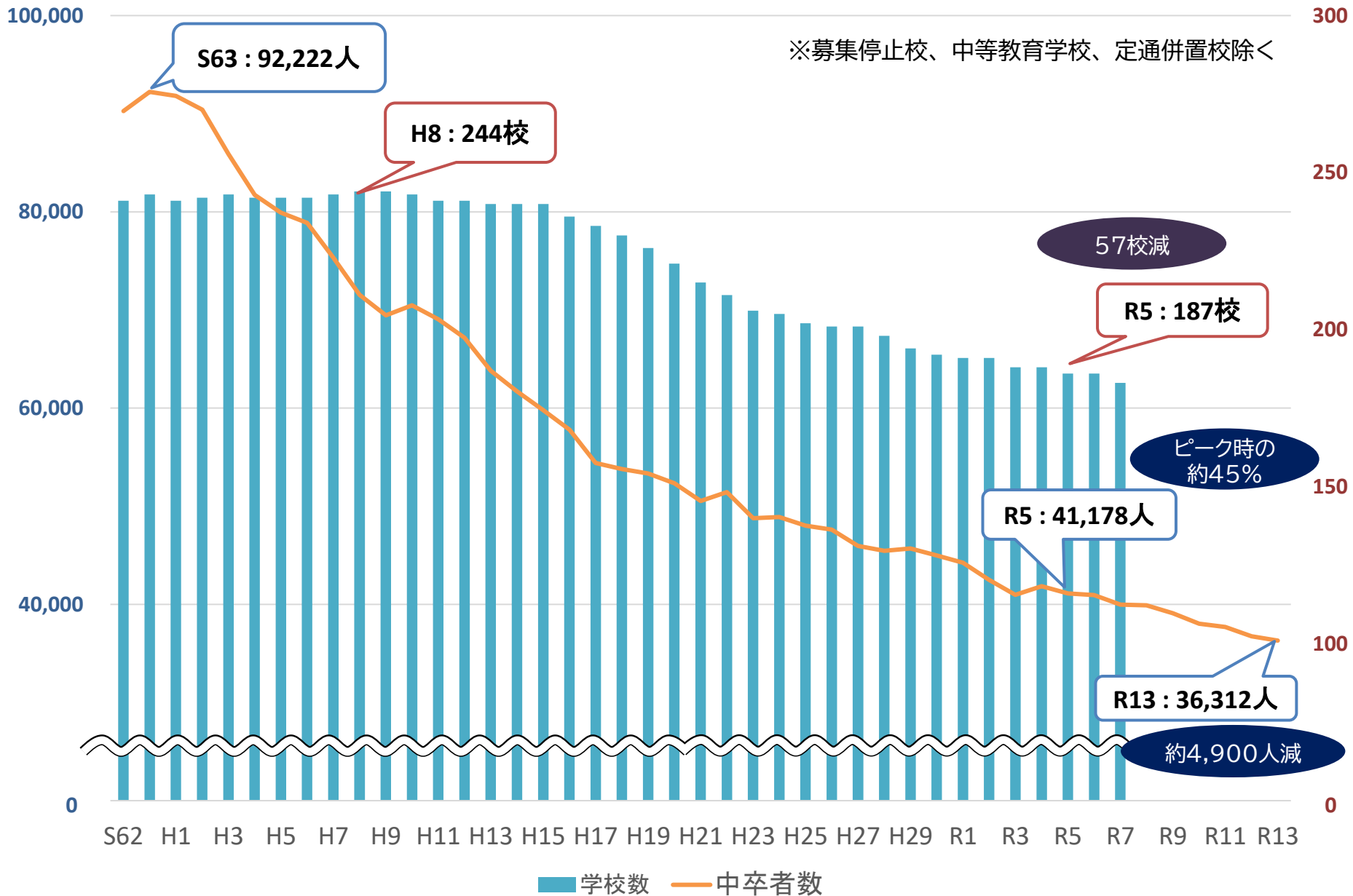
配信スペースは15か所（ブース 8カ所）



ブースの様子（1教室あたり5配信×2教室）



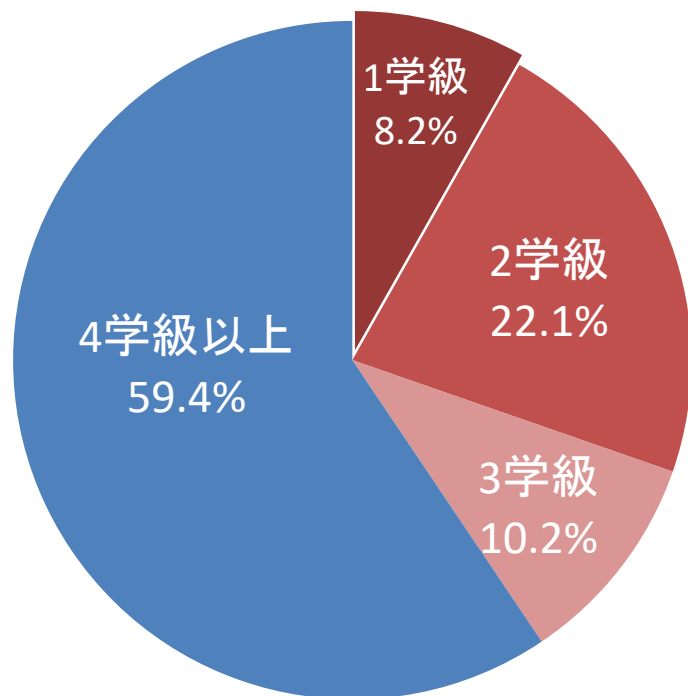
北海道内の中学校卒業生数と高等学校数の推移



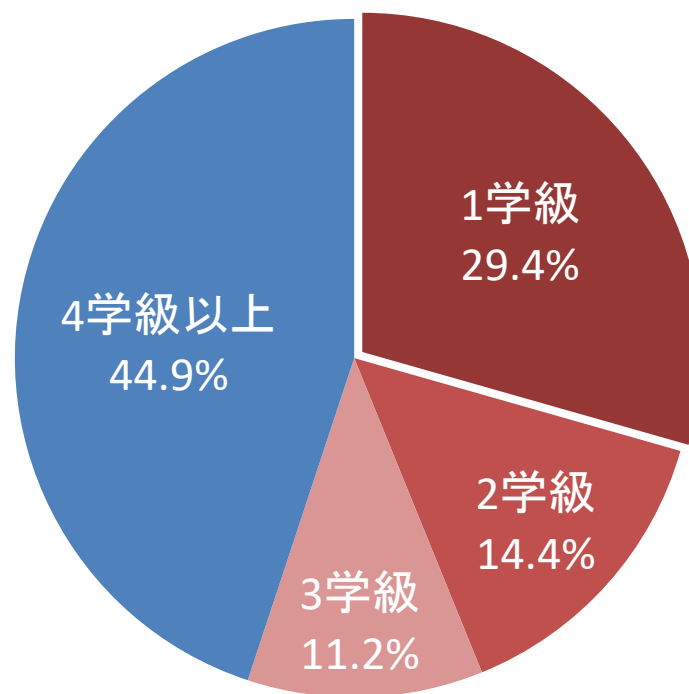
学校規模別の道立高校数（第1学年の学級数）

学級数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計
H8	20	54	25	32	20	19	14	19	10	31	244
R5	55	27	21	21	23	13	14	13	0	0	187

平成8年度



令和5年度



※募集停止校、中等教育学校、定通併置校除く

これからの高校づくりに関する指針（令和5年度改定版）

Ⅱ 地域とつながる高校づくり 3 地域連携校の充実 (3) 北海道高等学校遠隔授業配信センター

道内のどの地域においても高校生が自らの可能性を最大限に伸ばしていくことのできる多様で質の高い教育環境を提供することを目的に、令和3年4月、有朋高校内に北海道高等学校遠隔授業配信センター（以下「T-base」という。）を開設し、地元で学びながら生徒の興味・関心や進学希望等に対応する教科・科目の授業を年次進行で配信し、連携校及び離島に所在する道立高校の教育課程の充実を図っています。

令和5年度からは全ての学年で遠隔授業を配信することとしており、引き続き配信教科・科目の拡大や進路指導体制の充実など、T-baseの配信機能の強化を進めるとともに、生徒が多様な意見や考えに触れながら協働的な活動を行うことができるよう、教科の特性等を踏まえ、複数校に対して同時に授業配信を行うなど、他校生徒と切磋琢磨できる環境の整備に努めます。

今後は、連携校や離島に所在する高校以外の小規模校への授業配信や進学講習の合同配信等を検討するとともに、ICTを活用した遠隔教育の普及に向けて取り組みます。

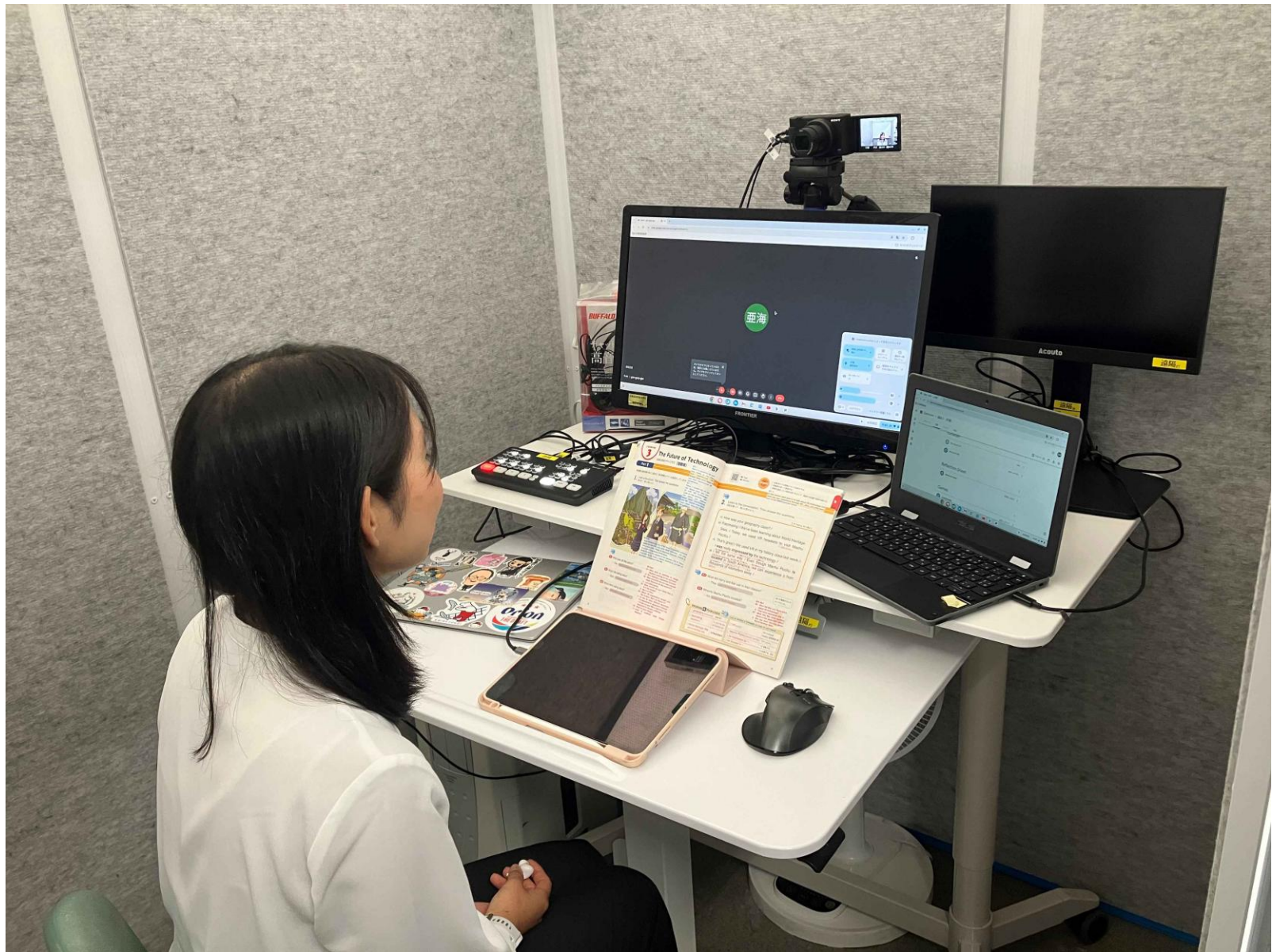
授業の様子（書道Ⅰ）



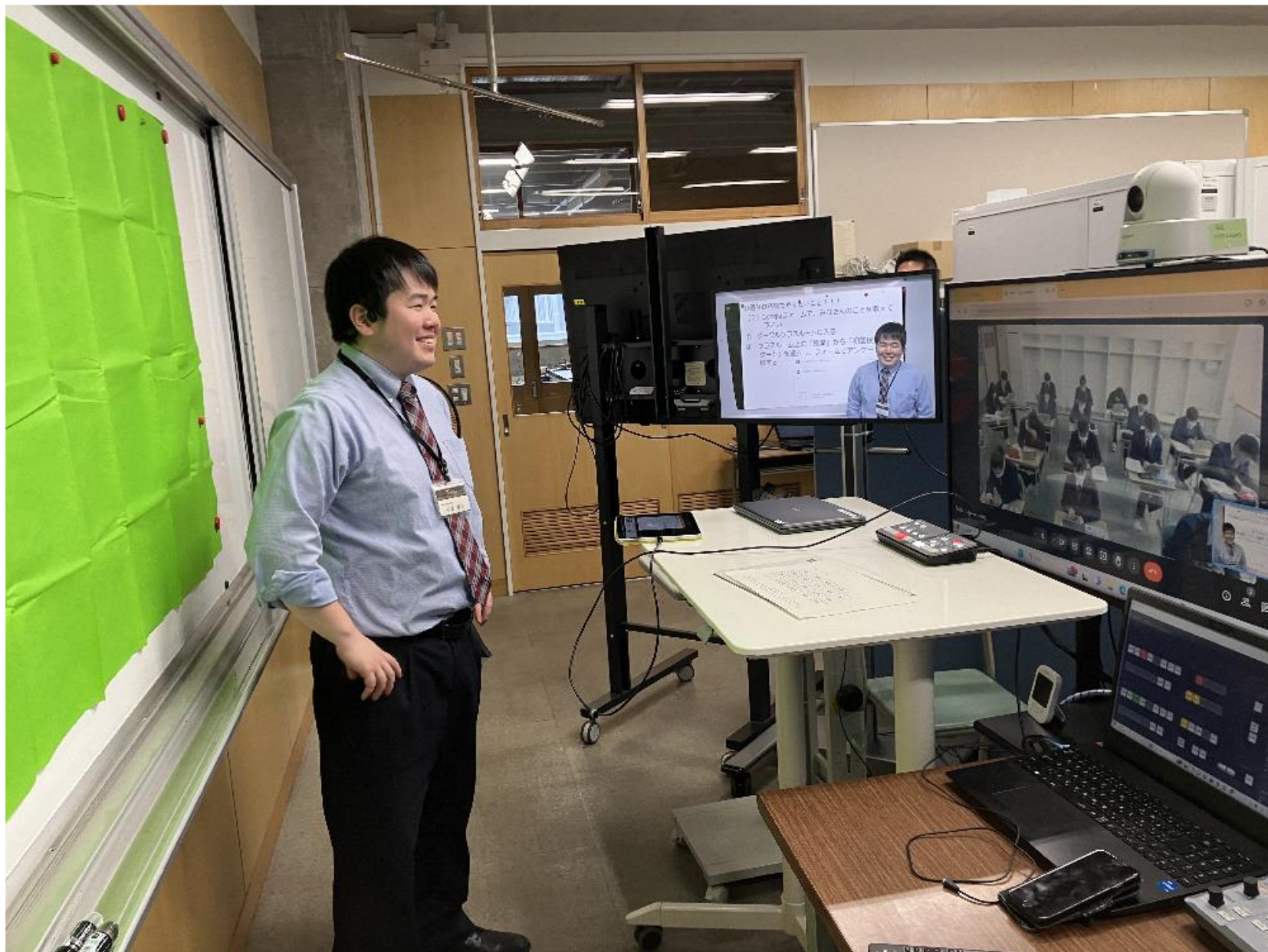
授業の様子（外部講師連携・フューチャーデザイン）



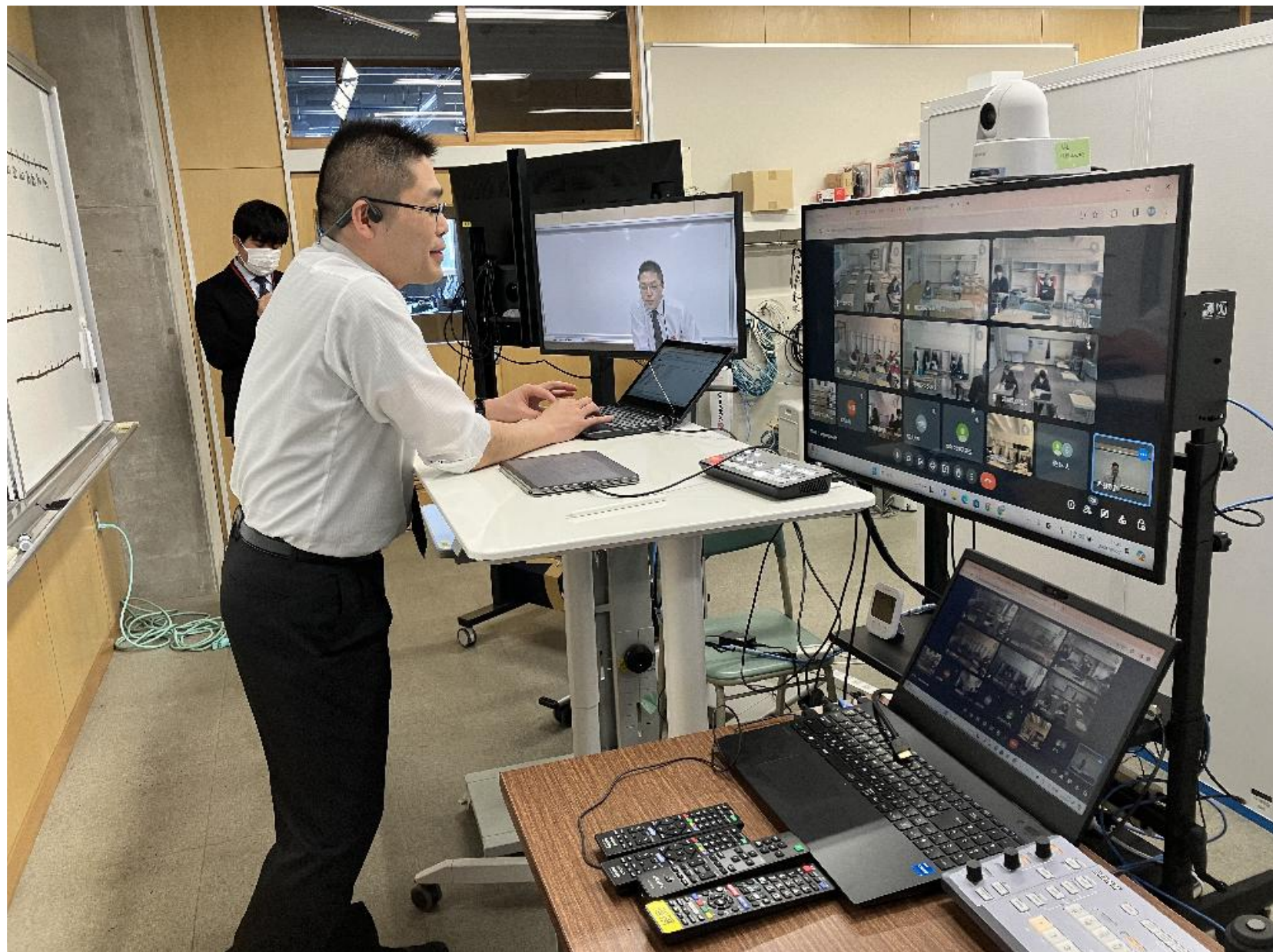
授業の様子（英語コミュⅠ）



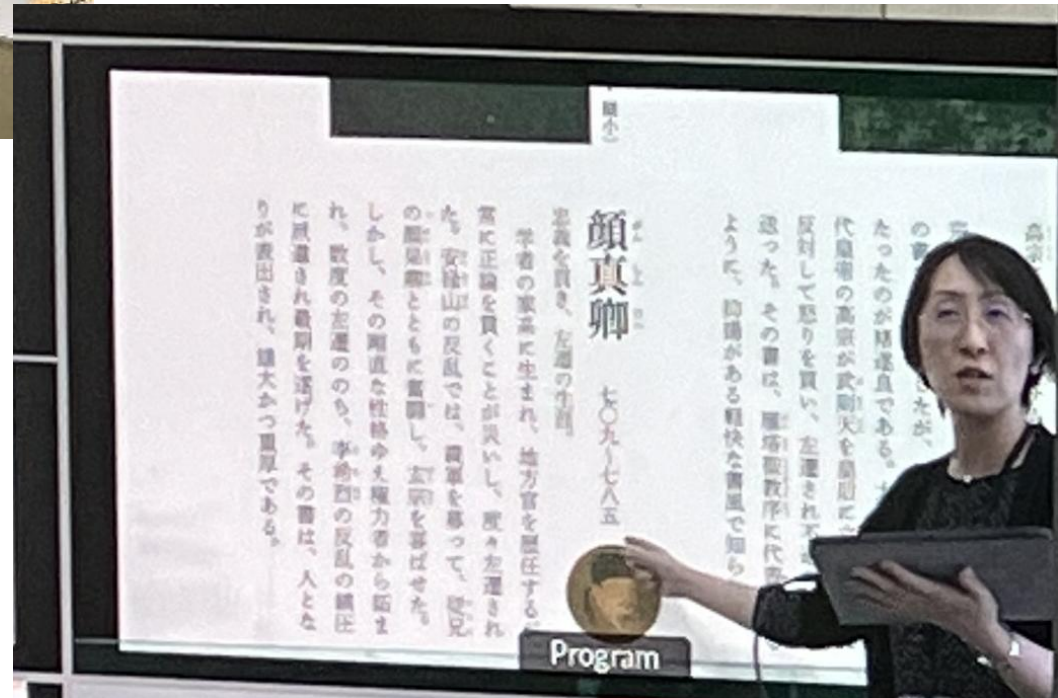
授業の様子（歴史総合）



講習の様子（数学Ⅰ 標準）



授業の様子（書道Ⅰ）



授業の様子（書道Ⅰ）



授業の様子（海外からの視察）



受信校でのテストの様子



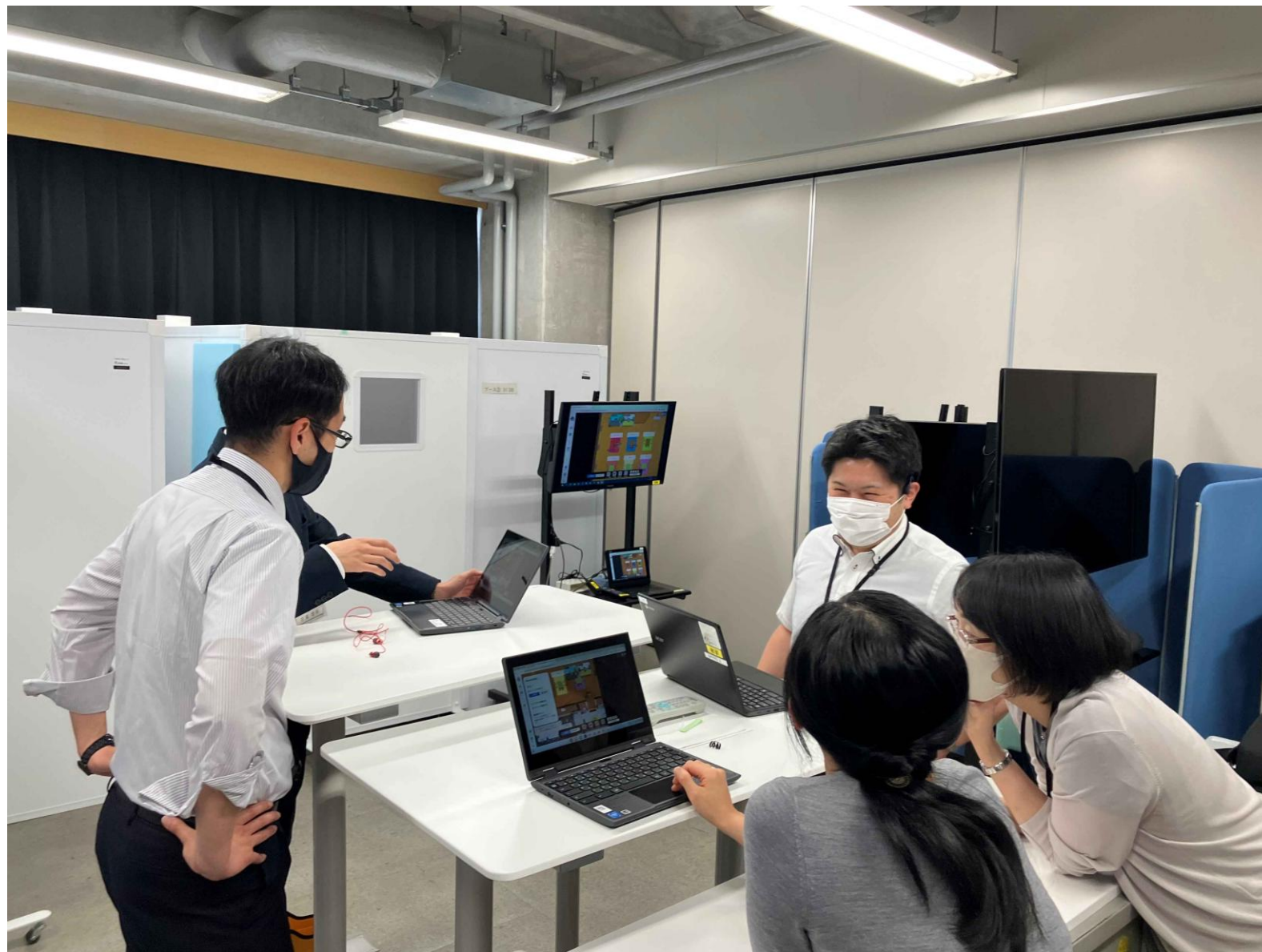
T-base教員間の授業見学の様子



T-base教員による機材研究の様子



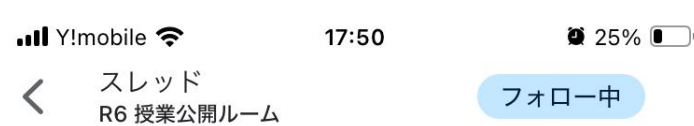
T-base教員による機材研究の様子



2校の合同授業ではメタバースも活用



チャットによる情報共有



俊策

4月に赴任したとは思えないほど、機器操作がスムーズで、生徒の掌握も素晴らしい授業でした。自分も頑張らなければと気の引き締まる思いです。
次はiPad ケースを緑にしてください。



4月19日 13:59

亮寛

クロマキー[redacted]生の授業形態（問いを重視しジグソー法を活用）の親和性が高く、それを4月の段階で実践していることに驚いています。良い授業のあり方を日々考えているからできることだと思います。幸い配信場所が同じなので、これからも学ばせていただきます。（今回の実践から、クロマキーをfigjam写真で使田するアイデアを頂きました。あり



チャット

共有

タスク

12月5日 9:27

匡哉

Meetのカメラが自動フレーミングになった？ようです。
314もそうでしたが、313も自動で人にフォーカスされてしまいます。板書が全然できないので、急遽ブースで授業していますが、ブースもそんな感じ（いつもよりワイドには写ってない）です。

Meetの仕様変更なのでしょうかね？



12月5日 9:28

えーっ。対応大丈夫ですか。

12月5日 9:33



履歴がオンになっています



履歴がオンになっています



T-base教員の実験の様子



T-base教員が作成した手作りプロンプター



教員研修会



T-baseの遠隔授業で大切にしていること

1 授業そのものの質の向上

(ベースとして音と映像の重要性)

2 教員の高いモチベーション

(ワクワク感、一緒に面白がるスタンス、良好な関係性)

3 新しい学びを生徒と共につくる意識

(機材の使い方、ツールの発見・活用、フラットな人間関係)

4 理念の共有・課題の共有・情報の共有

(生まれた場所に関係なく、学びの環境を提供する)

5 受信校との信頼関係

(対面授業を重視、日常的な担当教員との情報共有をシステム化)



ご清聴ありがとうございました m(_ _)m